

群マネの手引き(案)について

「群マネの手引き」の段階的な公開

- 過年度までの先行事例調査で得られた知見を中心として、まずは群マネの基礎や既存事例のノウハウ横展開を目的とした手引きVer.1をR7年夏頃に公表予定。
- さらに、モデル地域での試行や関係部局との調整など更なる検討を加えた上で、既存事例が乏しいパターンを解説する手引きVer.2を公表予定(例:インセンティブの設計、広域連携スキームの構築等)。

[手引き作成に当たっての作業原則]

原則①:毒にも、薬にもならないことは書かない

- ・自治体職員が「分かっているよ」ということを長々と書いても、読者にとって時間の無駄。
- ・「●●が重要」、「●●が望ましい」は要注意表現。それだけで終わらないように気をつける。

原則②:具体的なアクションを書く(HOW)

- ・「チェックリスト」で実施手順を解説(機械的に順を追えるように)。
- ・「フォーマット」や「サンプル」で、1歩目を踏み出せるよう付録を整備(協議や検討が発散しないように)。

原則③:世の中の手引き系で一番読みやすくする

- ・分厚い読み物を作っても、自治体職員に読んでもらえなければ存在していないも同然。
- ・分量、文章表現、紙面構成、デザインにも心を配る。

「群マネの手引きVer.1」の概要

○ 群マネ導入の必要性やメリットを紹介した上で、群マネの類型や先行事例、具体的な実施プロセス等を解説することで、導入検討から実践までサポートする。

章	見出し	記載概要
1. インフラメンテナンスの「見える化」	● 全国の「見える化」 ● 自治体毎の「見える化」	・インフラメンテナンスの危機感を共有するため、全国的なインフラ老朽化や自治体職員数の減少、小規模自治体の増加予測などのデータを示す。 ・さらに、危機感を自分事化してもらうため、自治体毎データの分析例も示す。
2. 群マネのコンセプト	● インフラメンテナンスの現場の苦悩 ● 群マネの概念と目指す姿 ● 先行事例における効果の声 ● 「群マネ」と「束」	・現場の苦悩として、インフラ老朽化と人手不足が同時進行していく中での自治体や事業者双方の悩みの声を紹介。 ・群マネの概念として、複数自治体のインフラや複数分野のインフラを「群」として捉え、自治体、事業者、技術者の「3つの束」で、スケールメリットや創意工夫により、メンテナンス業務を効率化していくという考え方を解説。 ・先行事例における効果について、発注者・事業者・住民それぞれの声を紹介。 ・群マネには、「広域連携の群マネ」と「多分野連携の群マネ」があり、さらに、それを支える“束”があることを紹介。本手引きの対象範囲としては、こうしたインフラメンテナンスに役立つノウハウを幅広く紹介することを記載。
3. 群マネのメニュー	● 群マネの類型 ● 群マネの先行事例	・群マネの類型としては、広域連携（代行、共同発注、協議会等）、多分野連携（分野の組合せパターン等）、事業者連携（JV、事業協同組合）、プロセス連携を解説。 ・具体の実施イメージができるよう、すでに実践している先行事例での適用スキームや効果、運用のポイントを紹介。
4. 群マネの実施プロセス	● 標準的なステップ ● 各ステップのQ&A ● 群マネを進める上での心得 ● 先行事例におけるエピソード（苦労話など）	・準備段階、キックオフから実施方針の検討、事業者とのコミュニケーション、予算要求・発注手続き、事業実施、評価・次期事業の検討に至るまでをチェックリスト形式でたどれるように解説。 ・さらに、各ステップを一つずつ乗り越えられるよう、想定される壁へのQAや心得、先行事例の苦労話などのエピソードなどを解説。
5. 群マネの計画策定	● 群マネの計画策定で検討すべき項目 ● 自治体計画への位置づけ	・検討すべき項目として、直近の「業務のマネジメント戦略（対象範囲、発注上の工夫）」や「自治体の束（広域連携スキーム）」、中長期的な「技術者連携・データ連携」を解説。 ・群マネを計画的に推進できるように、自治体計画への位置づけ方法を解説（長寿命化関連や広域連携関連の計画）。
6. 技術者連携の取組紹介（人の群マネ）	—	・他の自治体職員と気軽に情報交換や悩み等の相談ができるような場が切望されていることから、技術者連携（人の群マネ）に資する取組を紹介。

「群マネの手引き【付録編】」の支援ツールラインナップ

- 手引きの付録編にて支援ツールとして、各ステップの具体的な検討をサポートするシートやフォーマット、実際に先行事例で使用している自治体間の協定書や発注図書のサンプルを整理。

形式	付録	概要
検討支援シート	● 現状把握シート	自治体職員の年齢別の人数、業務項目毎の実際の従事時間割合と本来注力したい理想の割合をExcelに入力することで、【職員体制や業務配分のグラフ】がアウトプットされる。
	● 業務マップ作成シート	現在の維持管理業務の発注状況について、業務概要（インフラ分野、業務項目等）、金額、受注者概要（域内・域外、業種）を入力することで、【業務マップ】がアウトプットされる。
	● 導入効果試算シート	超勤時間の縮減見込みや人件費の単価設定、委託金額の変化等をExcelに入力することで、【直営＋委託のトータルコストの比較】がアウトプットされる。
	● 事業者アンケート調査作成シート	先行事例で実際に使用した事業者アンケートをもとに整理した設問や選択肢の一覧表から、採用したいものを選択することで、【アンケート調査票】がアウトプットされる。
フォーマット	● 群マネの実施方針フォーマット	業務範囲や発注形式、自治体間の連携スキーム等を記入することで、自治体計画へ位置づけする際の別添資料が完成する。
サンプル	● 自治体間の協定書	静岡県、岐阜県白川村
	● 発注図書（プロポーザル実施要領、要求水準書、特記仕様書、モニタリング手順書）	・ 広域連携：静岡県 ・ 多分野連携：新潟県三条市、秋田県大館市、福島県（宮下土木事務所）、三重県明和町 ・ プロセス連携：東京都多摩市、奈良県田原本町
	● 奈良モデル関係資料セット	奈良県が実際に使用している資料セット （手続きフロー、市町村への意向調査、協定書（点検、補修設計、補修工事、職員派遣）、入札事務執行依頼書、委託業者確定通知書）